

営業の概況

鉄鋼関連事業 鉄鋼需要は、民間設備投資や建設投資の低迷から厳しい状況が続いておりましたが、アジアを中心とした需要の回復により輸出が増加したことから、全国粗鋼生産は前年同期を上回りました。また、国内在庫の急速な減少など需給バランスの改善も進み、市況も上昇してきております。このような状況の中、当社は総力をあげて営業活動に取り組んだ結果、輸出向けは、需要の急回復により好調に推移しましたが、国内向けは、需要の低迷が続いたことにより、鋼材の売上高は前年同期を下回りました。

溶接材料については、輸出がアジア向けを中心に堅調に推移したものの、国内では建設向けを中心に需要が低迷したことから、売上高は前年同期を下回りました。

一方、鋳鍛鋼品は船用分野向けが、チタン製品については電力・海水淡水化プラント向けが好調であったことから、それぞれ前年同期を上回る売上高を確保しました。

また、当期から電力卸供給事業において発電所が営業運転を開始したことなどにより、当事業の売上高は前年同期比5%増の2,524億円となりました。

アルミ・銅関連事業 アルミ圧延品の販売量は、アルミボトル缶の採用が増加したことにより飲料用アルミ缶材が好調に推移し、また、IT関連需要の回復により半導体製造装置向けアルミ厚板も増加しました。押出材についても、自動車向けを中心に全般的に堅調であったことから、全体では前年同期を上回りました。

一方、銅圧延品の販売量は、国内エアコンメーカーが海外生産シフトを拡大したことにより国内向け空調用銅管が減少したものの、IT関連需要の回復により電子材料用板条が大幅に増加したことから、全体では前年同期を上回りました。

このように販売量は増加したものの、原料市況の低迷により、当事業の売上高は前年同期比3%減の1,280億円となりました。

機械関連事業 国内向け受注は、都市ごみ処理設備需要の大幅な減少により、前年同期比34%減の520億円となりました。海外向けは、原子力関連機器および回転機が堅調に推移したことから、前年同期比41%増の149億円となりました。

この結果、当事業全体の受注高は前年同期比25%減の669億円となり、当上半期末の受注残高は1,708億円となりました。

一方、当事業の売上高は、過年度に受注した都市ごみ処理設備の売上により前年同期比5%増の983億円となりました。

建設機械関連事業 国内の建設機械市場は、公共工事の抑制および民間設備投資の減少により、需要は大幅に減少しました。一方、海外においても、欧米での受注は引き続き低調に推移したものの、中国での需要が大きく拡大するとともに、東南アジアでも回復基調にあります。

このような状況の中、当事業の売上高は、国内需要の低迷の影響を受けたものの、中国向けが好調に推移したことから、前年同期並みの733億円となりました。

不動産関連事業 不動産業界においては、低金利政策の継続、住宅減税制度の延長などの下支えがあったものの、今年度の住宅着工戸数が3年連続で前年度を下回ることが見込まれるなど、厳しい状況で推移しました。

このような状況の中、当社は積極的な事業活動を展開しましたが、景気低迷による消費マインドの冷え込みや、地価の下落に伴う販売価格の低下などに加え、前年同期に分譲物件が集中したことなどから、当事業の売上高は前年同期比32%減の157億円となりました。